

道徳通信

愛西市立八開中学校
令和4年2月7日
青ブロック職員

📌「感謝の気持ちについて、考えを深めよう」～道徳「背番号10」を通して考えました～

野球部キャプテンの「僕」は、いらだちを皆にぶつけるように注意してしまい、皆の心は離れていきつつありました。そんなある日「僕」は骨折し、数か月野球ができなくなってしまいます。翌日から「僕」は、チームの裏方に徹し、皆を励まします。皆はしだいに「僕」を頼りにするようになりました。夏の大会前、復帰したばかりの「僕」は背番号10を監督からもらいます。皆に向かって礼をした僕に大きな拍手が贈られました。挫折を乗り越えてキャプテンとしての役割を果たす生徒の物語を通して、自分と周りの人々がどのような思いで関わっているかを考えました。

●● ●●さん

真剣に取り組んで成果はあるかないかはわからないけど、自分のやり遂げたことは素晴らしいと思った。

●● ●●さん

今回の授業を通して、いつも支えてくれている人に感謝の気持ちをもつことが大切だと思いました。また、日々の努力は報われる時が来るということがわかりました。今回大切だと思ったことを、高校生活やこれからの生活にいかしていきたいと思いました。

●● ●●さん

ケガをしても努力すれば報われると思った

●● ●●さん

骨折をしたままで終わるのではなく、自分にできることをして背番号を獲得することがすごいと思った。努力をしたら違う道でも活躍できることを学んだ。

●● ●●さん

個人によって理想とするキャプテン像は違うようだった。自分は細かいことをガミガミ言う人よりも影で練習をじっとみていてノートに取っている人の方がよっぽどいい。将来そういう立場になったらあまり何も言わないようにしたい。

●● ●●さん

みんなをまとめる、誰かの前に立つことは、目標を掲げてみんなの士気を高めるということだけではなく、みんなの雰囲気など一度全体を見る必要があるんだと思いました。自分はみんなの前に立つ人物にふさわしいんだということを一度証明することも必要だと思いました。

●● ●●さん

自分のできることをして感謝の気持ちを表していこうと思った。また、事前に最近ありがとうと言ったことを考えたときにすぐに思いつかなかったので自分はありがとうと言おうと思って言っているのではなくて感情に素直に伝えているのだと気づき、これを続けていこうと思った。

●● ●●さん

怪我をする前の「僕」は、練習して練習して成長するという考えだったけれど、怪我をして練習が出来なくなり、絶望していたと思う。けれど、父の言葉で野球に対する思いが再び芽生え、自分にできることを全力で尽くして、キャプテンとして、チームを支えたと思う。怪我をするのは良くないことだけれど、その出来事があったおかげで「僕」自身の考え方が変わったと思った。

